

途上国アルバム：逆境下を生き抜くフィリピン国鉄南線

北海道教育大学函館校教授 松田 教男

フィリピン国鉄（PNR）は、スペイン統治時代末期の 1892 年に長距離列車の営業運転を開始し、現在もマニラ首都圏の通勤線及びマニラからの南方線（南線）の運転が、全線ではないものの続けられている。フィリピンは日本と同様に台風、火山噴火、大洪水などの自然災害が多く、北線（マニラーラ・ユニオン間の 266 km）は 1991 年のピナツボ火山の大噴火以降廃線状態となっており、南方線（マニラーレガスピ間の 474 km）も大型台風の襲来等により、各地の軌道が頻繁に寸断され、比較的長期間の運行停止と再開を繰り返してきた。

筆者は 2007 年 9 月から 2011 年 10 月までの 4 年余り、JICA フィリピン事務所長としてマニラに駐在したが、2010 年 7 月に 2 回、日本の円借款により 1990 年代半ばに復旧・リハビリが行われ、2006 年 9 月の台風 15 号（ミレーニョ）で 3 か所の鉄橋が流される等の被害に見舞われ運休していた南線の現状と、PNR による復旧に向けた取り組み状況を視察する機会を得た。

まずは、マニラ南方約 400 km 付近のナガ市近郊で 2009 年 9 月から運行を開始したビコール通勤列車の様子から紹介する。



ナガ駅に停車中のビコール通勤列車（ナガ近郊区間のみ運行）の新型車両（韓国製）。旧型は、日本の JR 各社から譲り受けた中古車両がほとんど。



同新型車両の車内。洪水等の影響で線路が大きく歪んでいる区間が多く、そうした区間では、激しい揺れのため立っているのは困難。時速は 20 km 以下。



拠点駅以外はプラットフォームがなく、乗り降りは大変。全ての車窓に設置されている網は、線路周辺住民からの投石防護用。



拠点以外の駅には乗降用のにわか作りの台が 1、2 か所ある。停車時間は意外と短く、乗降台のないところで乗り降りする人も多い。

ナガ市は PNR 南線の現在運行可能な最南部の拠点であり、機関車・客車の修理基地がある。また、老朽化が激しい木製の枕木をコンクリート製の枕木に順次取り換えるために、コンクリート枕木の製造基地にもなっている。マニラから南方 100 数十 km 付近にあるルセナにも、同様の修理基地とコンクリート枕木等の製造基地があるが、木製枕木からコンクリート製枕木に代わっても、レールを固定するための金具の部分（犬釘を含む）は、沿線住民が換金するために剥がして持ち去るケースが後を絶たないという。

PNR の資料によれば、ルセナーナガ間（長距離列車は 1 日 1~2 往復で、自然災害等のため長期間不通になる区間も多い）では、年間数件~数十件程度の脱線事故があるようである。視察時に面談した PNR 当局者によれば、老朽化した車両に起因するものや、軌道の不備に起因するもの他、金具の盗難によるレールと枕木の分離に起因するものもあるようである。



ナガ駅の車輛修理基地。外観からして基地そのものの老朽化の激しさが分かる。



視察した時は、機関車の修理が行われていた。PNR は全線にわたって未電化で、ディーゼル機関車が牽引している。



ナガ駅に隣接する工場で製造され、積み上げられたコンクリート枕木。



敷設済みのコンクリート枕木。木製枕木も含め、レールを固定するための金具と犬釘は、盗難にあうことが多い。

PNR 南線の都市部とその周辺においては、地域住民が日々の通勤・通学や物資運搬のために PNR の軌道上に多数のトロッキを走らせているところが多いが、列車の運行本数が少ない（ナガ駅の時刻表によればビコール通勤線は 1 日 3 往復）ことから、列車の警笛が聞こえた時点でトロッキを軌道から外し、列車の通過を待つことで充分間に合い、列車の運行上はほとんど支障がないらしく、PNR も取り締まることはしていないようである。



PNRの軌道上をトロッコで通学する子供たち。



こちらは物資運搬中のトロッコ。



こちらは多目的(?)のトロッコ。線路脇にもいくつものトロッコが置かれている。



筆者(前列中央)もトロッコに試乗してみた。これは軌道の点検・修理用のPNRのトロッコ。

PNR 南線の長距離路線は、既述のとおり毎年台風等の自然災害により寸断される個所が多いが、予算的制約や人員削減から修復工事や既存路線の維持管理が充分行われておらず、下の写真のように危険な個所が数多く見受けられる。陸上では自動車輸送(長距離バスを含む)が中心になって久しいが、頻発する自然災害とそれに伴う度重なる運行停止にもめげず、鉄道は今も庶民の足として、物資の輸送手段として逞しく生き残っていることに拍手喝采を送りたい。



維持管理が行き届かず、土砂と草に埋もれた線路。



こちらも土砂に埋もれた線路(道路横断部分)



まだ木製枕木のままの、いかにも危険そうな鉄橋上の線路。



線路脇の成長しすぎた木々の枝を伐採する人々。